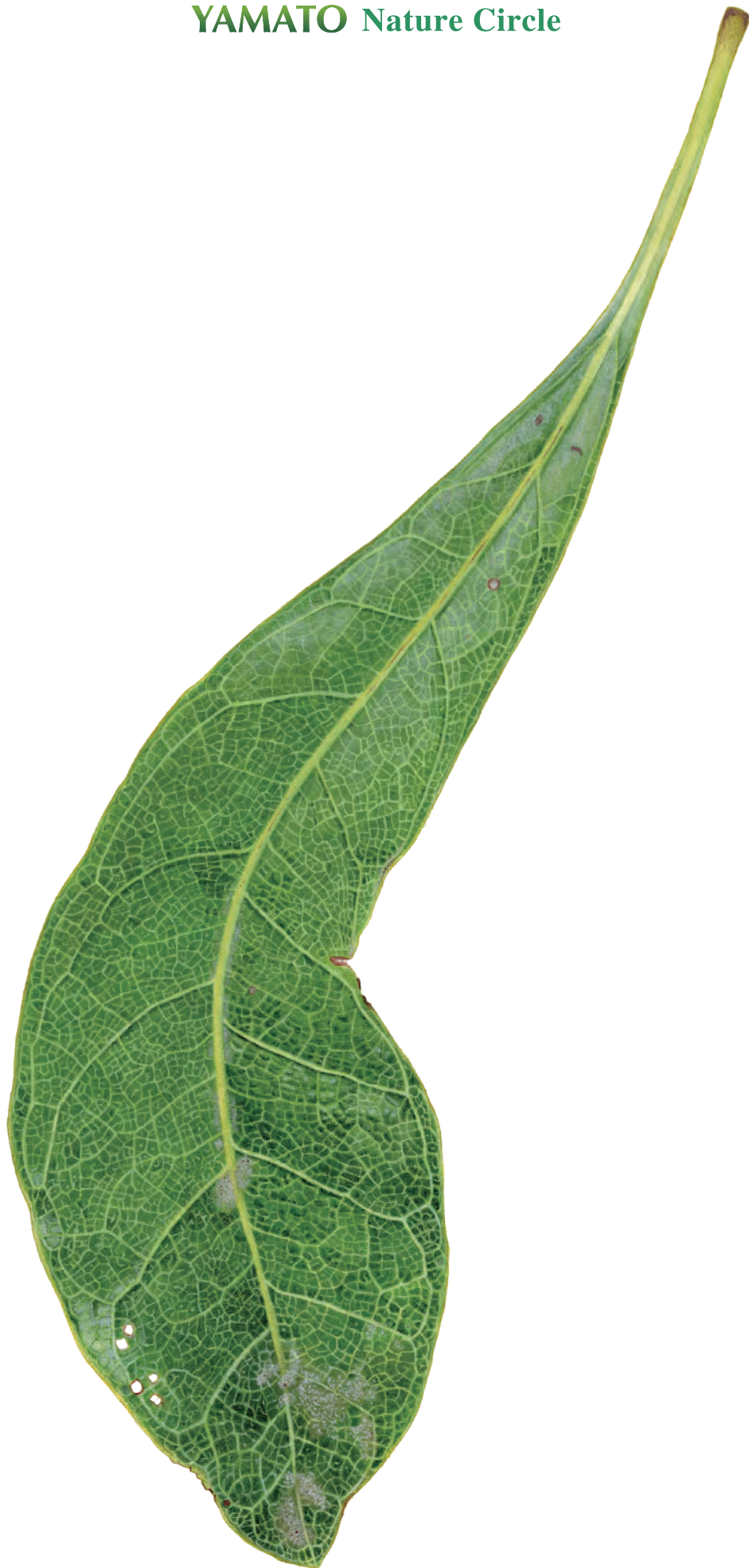


YAMATO Nature Circle



2026年10月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.92

—— 絵と文 群馬直美 ——

葉脈界のアール・ブリュット《ヤマモモ》

酷暑の夏がやってきた。アトリエの寒暖計の赤い液体がぐんぐん上がり40度を超えている。
ヤマモモの葉っぱの葉脈に目を凝らす。絵筆の先につけた絵の具が、暑さでみるみるうちに乾いていく。
水分を多めに含ませるとぼったりとした線になってしまう。ああ、描けない……どうしたらいいんだ……。
朦朧とする意識の中、どこからともなく「拡大して描いたら〜」軽やかな声が聞こえてきた。
周りを見回す。誰もいない。葉っぱの妖精のささやき声?くねりと曲がった葉っぱを選び、長さを測る。
65mm。うん、これを270mmに拡大して描こう、と心に決めたのは先月のことだった。
ヤマモモの葉っぱは、細かな葉脈までくっきりはっきり見て取れる。
真ん中を走る太い主脈。両サイドに分かれる側脈。側脈は葉の淵の手前で湾曲し、歪な部屋を作る。
この部屋は、さらにいくつかの歪な部屋に分かれ、別れた部屋はさらに歪な部屋になり、
最終的に丸かったり四角だったり、台形だったり三角だったり……。
様々な形が網の目状に絡み合う網脈となり、
その一つ一つの中に唐草模様みたいなあやふやな筋や点が見えるではないか。
この自由奔放さ! ……フランスの画家デュビュッフェの絵のようだ。
デュビュッフェは、アール・ブリュットを提唱した人。
アール・ブリュットとは、フランス語で「生の芸術」という意味で、
内側から湧き起こる衝動のまま自由に表現した芸術のこと。
規則性がありそうでないヤマモモの葉っぱの葉脈の形に、
内側から湧き起こる衝動の自由さそのものをわたしは感じ取り、4.15倍に拡大して描いた。

《表紙の絵》ヤマモモの葉 ×4.15

「くっきりはっきり見える
細かな葉脈が魅力的。」

・ヤマトビオトープ園にて2026年6月22日採集
(作品の完成日は、2026年8月20日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ

・size:335mm×245mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。
<https://www.wood.jp/konoha/>